令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（　武雄　）小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	62.5	61	39.3	55		54
	(1.07)	(0.95)	(0.93)	(0.89)		(0.87)
R４正答率の全国比		0.92		0.87		0.85

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○　現６年生

・５年時では国語では県平均を+0.07 上回っていたが、６年時では国語は県比-0.05、全国比-0.08 とほぼ同程度であった。算数は県比-0.11、全国比-0.13、理科は県比-0.13、全国比-0.15 と大きく下回った。

・国語の内容別正答率では、「言葉」「話す・聞く」は県・全国平均とほぼ同程度であったが、「書く」は 51%、「読む」は 58.7%と正答率が低かった。特に「書く」は無答率も高く 20%前後あり、目的に応じて文章と資料を結び付け必要な情報を見つけたり、中心となる言葉や文を見つけ要約したりすることに指導の重点をおかなければならない。

・算数では、記述式の問題が正答率 49.5%で、県比・全国比と比較して-11%と落ち込んでいる。領域別では、「図形」（56.6%）「変化と関係」（43.4%）について課題がある。特に、割合や比例の補充学習の必要がある。

・理科の領域別正答率では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の 4 領域ともに、県比・全国比を下回った。特に「地球」領域では正答率 51.4%で県比-11.2、全国比-13.2%と大きく落ち込んでいる。実験・観察で得た結果を分析して自分の考えを持ったり、それを記述したりする力を育成する必要がある。

・意識調査では、「学校の授業の予習や復習をしている。」児童の割合が 75.5%と県・全国平均を上回っている。これは、日々の課題や高学年での「自学」の習慣が定着していることの表れである。また、「自分で決めたことをやり遂げようとしている。」児童も 85.7%と目指す子ども像である「やり抜く力の育成」の効果が表れてきている。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の西部型学習過程を基本とし、どの教科においても実施する。児童自ら問題解決していく過程を大切にすると共に、自分の考えやその根拠を伝える力を付ける授業づくりを更に継続していく。

・ICT 機器の整備については、環境に恵まれている。１人１台タブレット端末、電子黒板など、今後も大いに活用した授業作りを進める。本校の校内研究のテーマである「１人１台タブレット端末を活用した授業改善」を進めることで協働的な学びや個別・最適化に向けた授業づくりを図っていく。

・算数科を中心に TT や少人数指導を継続し指導方法の改善を図っていく。それとともに個別の対応の機会を増やし児童の学習理解度を高める。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「家庭学習ノート」（自学）を主として高学年で継続して取り組む。よく書くことができている児童のノートを称賛したり、手本となるノートを掲示したりする。また、全学年の「たけおっ子ノート名人コーナー」をつくり、ノートの取り方の参考にさせる。

・「学力向上タイム」を定期的に実施する。県や国の学習状況調査の過去問題に取り組ませ、解説をする。問題形式に慣れさせるとともに、じっくり問題に取り組みやり抜く力を育成する。

・週3回の「花まるタイム」により、語彙力や視写力、計算力、空間認識力などを身に着けさせる。